



心の糧

十二使徒会補助

アルビン R. ダイアー

現 代の若者は将来、驚くべき出来事と動揺に遭遇するであろう。若者の関心は大衆や事のなり行きにまかせるのではなく、正しい道徳と霊的なバランスを保つことに向けられなくてはならない。そのようなバランスについての一節を挙げてみよう。

いかに無害に見えようとも、

「理性を弱め、良心をにぶくし、神の存在をあいまいにし、霊的な事柄の味わいを奪い、心を抑えてしまうほど肉欲を増すものは何であっても、それは罪である。」(スザンナ・ウェスレー、18世紀の英国宗教改革者ジョン・ウェスレーの母)

人間存在の意義と目的は、性や欲求よりもはるかに深遠な力により定められている。人間は、神が与えたもうた教えを固く守ることにより、神との関係を保つ必要のあることを感じる。この感情から、人間は単に生物学的に死んでしまう変わりやすいものではなく、永遠の存在であるという信仰と確信が生まれるのである。このしっかりと極められた真理こそ暗黒を制する光のバランスをつくり出すことができる。

— も く じ —

新たに組織された大管長会	59
キリストの愛	ジョン W. ベニオン 64
態度と才能	ジョージ アルバート スミス Jr. 66
主の宮居	ジョン A. ウイツツオー長老 68
さあ、最良に活用しなさい	リチャード L. エバンズ 69
改宗	サミュエル L. ホームズ 70
系図	
系図：人類に平等な機会を与えるもの	デビッド H. プラット 72
管理監督のページ	
あなたの監督	ジョン H. バンデンバーグ 73
聖典を生かす	エレイン・キャンオン 75
証	ビュール B. ブラウン 76
日曜学校	
効果的な伝達方法	トーマス S. モンソン 80
伝道部長メッセージ	ウォルター R. ビルス 84
ローカルニュース	85
己れをも許すこと	リチャード L. エバンズ 裏表紙

子供のページ

かくれんぼ	ルシル C. リーディング 7
魔法(まほう)	ジョージ D. デュラント 8

今月の表紙

ジョセフ・フィールディング・スマイス大管長は、1月デビッド O. マッケイ大管長の死去に伴い、教会の大管長としてまた主の予言者として選ばれた。長年教会の業に仕え、準備の後、今日の高い職に就かれた。今月号の「新たに組織された大管長会」の記事で、新大管長とハロルド B. リー、ナサン エルドン タナー副管長を紹介している。



(左) 教会の大管長会第一副管長に選ばれたハロルド B. リー副管長
(中央) 教会の予言者および大管長に新しく聖任されたジョセフ・フィールディング・スミス



(右) 第二副管長に選ばれたナサン・エルドン・タナー副管長

新たに組織された大管長会

末日聖徒の愛するデビッド O. マッケイ大管長の死去に伴い、1970年1月23日、主の予言者、大管長が選ばれた。

新大管長は93歳のジョセフ・フィールディング・スミス長老で、十二使徒評議員会会長をつとめ、新たに聖任された高い召しを受けるにふさわしい備えをしてきた方である。我々はこの年老いた神の僕の前に立つと畏敬の念を感じる。驚くべき方法で、主は彼を守られた。スミス大管長は、教会で長い間高い召しにあり、教会幹部として仕えてきた。主の御業のために何万マイルを旅し、大いなる聖典の知識と福音の教えを説き、多くの書物や記事を記し、特に、主の教会に対して確固とした、妥協のない、一貫した献身を続けた人である。

スミス大管長は第一副管長として、ハロルド B. リー長老、第二副管長としてN. エルドン タナー長老を選んだ。

ハロルド B. リー副管長は1899年3月28日サムエル M. およびルイザ・ブリガム・リーの間にアイダホ州クリフトンで生まれ、兄弟と共に農家に育った。

1920年西部諸州伝道部に召されるまで、彼はアイダホ州オックスフォードで校長を勤めた。

1923年ファーン・ルシンダ・タナーと結婚し2人の娘をもうけた。1962年妻は死去し、1963年フレダ・ジョアン・ジェンセンと再婚。

1932年リー長老はソルトトレーク市理事に選任され、後に官

職についた。

一方、教会においても忠実な働きを示し、1930年パイオニア・ステーキ部長に召された。リー長老の指導のもとに、このステーキ部はまさに開拓者のステーキ部であった。福祉計画を確立し、それが全教会のモデル計画となったのである。1936年大管長会は彼に教会福祉計画の専務就任を要請した。この職に在任中、すなわち1941年4月、十二使徒評議員会に召された。使徒として彼は指導性と力を発揮し、常に重責を担ってきた。リー副管長は長年若人の信頼できる支持者、代表者として活躍してきた。

大管長会N. エルドン・タナー第二副管長は、カナダへ移住した末日聖徒移民団出身である。彼の両親すなわちなサン・ウィリアムおよびサラ・エドナ・ブラウン・タナーは、幌馬車に乗ってカナダへ移住し、それが新婚旅行であった。母親は初子を生むためしばしの間ソルトトレークに帰り、1898年5月9日に生まれたのがナサン・エルドンであった。

彼は農場に育ち、牛にひかせて畑を耕したりなどした。タナー長老は神の造りたもう物を愛し、特に人を愛することを学んだのであった。学校教育の機会には恵まれなかった。

1919年12月20日、サラ・イサベル・メリルと結婚し、現在五人の娘がいる。

タナー長老は1960年10月の総大会で十二使徒評議員会補助

に聖任され、その後西ヨーロッパ伝道部を管理するよう召された。1962年10月の総大会で十二使徒評議員として支持され翌年の10月デビッド・O・マッケイ大管長の第二副管長に選ばれた。

人生の指標として、タナー副管長はこう述べている。「主により召され、主が祈りに答えたまい、主が生命と救いの計画を与えたもうたことを知ること程、世の中に大いなるものはない」

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は7月19日で94歳になる。故デビッド・O・マッケイ大管長が使徒に召されて4年後の1910年4月7日、使徒に聖任され、十二使徒評議員となった。使徒としての在任期間はこの神権時代最長、十二使徒評議員会会長としては一番の高齢である。また十二使徒評議員会会長と副管長兼任は彼が初めてであった。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は1876年、ソルトレーク市の開拓者の家に生まれた。聖徒たちが谷に到着して29年後、ブリガム・ヤングが大管長の時である。それは苦しい試練の時代であった。ティラースピルの農場で兄弟と共に農業を手伝い、ジョーダン川の近くで牛の番をしながら彼は貧困のなかからやりくりの仕方や忍耐を学び、勤勉と儉約を身につけ、学問につとめた。この時代を回顧して彼の父はこのように語った。「……わたし、いや、みんなが働いていた。力の限り心と体一つにしてみんなで頑張らなくてはならなかった。そのようにみじめな状態でもうすぐクリスマスを迎えるというある日、わたしは言いようのない気持ちを胸に、古びた家を出た。子供たちに何かをしてやりたかった。クリスマスの日だけはいつもと変ったことをして子供たちを喜ばせてやりたかった。しかし、使えるお金は1セントも手元になかった。繁華街のウィンドーをながめ、アミュゼン宝石店や町の店を一軒一軒のぞいて歩いたが、わたしはとうとう椅子に腰をおろし、人目をしのんで子供のように泣いた。やがて痛む心も涙に洗われ、出てきた時と同じに手ぶらで家に帰った。……」

しかし、逆境は善人を強くし、強き者を偉大にする。そのうえスミス家には伝統と高潔、信仰、献身という富があった。それはスミス家に受け継がれてきた遺産であった。スミス大管長の父ジョセフ・F・スミスは、カーセージの牢獄で弟の予言者ジョセフと共に殉教したハイラム・スミスの息子である。ジョセフ・F・スミス大管長は8歳の時にミシシッピ川の西岸、モントローズからミズーリ川まで、幌馬車をひいて旅をした。その2年後彼が9歳の時、家族は幌馬車で1600キロの平原や山を越え、ソルトレーク盆地に着いた。母親がなくなったのは1852年、彼が13歳の時であった。彼は15



家庭で写真の注文に応ずるジョセフ・フィールディング・スミス大管長と妻ジェシー・エバンズ・スミス姉妹

歳でハワイへ伝道に召され、再びハワイで、またその後英国で二度、伝道をし、ヨーロッパ伝道部長として働いたのち、大管長会に召された。大管長になったのは1901年である。ジョセフ・F・スミス大管長については、「立派な父親、偉大なる義の説教者であり、真実の人として、我々の最も気高い理想を具現した。その信念は、敵味方ともに打ち破り得ない真理への献身と忠実に裏付けられていた」と書かれた。

この気高く偉大な父親と、同様にすばらしい霊的な母親ジュリア・ラムソン・スミスのもとで、ジョセフ・フィールディングは主や教会に対する信仰と愛をはぐくんでいった。福音の原則、すべての善きもの、真実なことは幼い頃から心に固く植えられ、年月と共に強くなっていった。

ジョセフ・フィールディング・スミスの教会に対する奉仕は不朽である。これまでの生涯を通じて、教会は彼の生活そのものであった。宣教師、教会歴史記録者、書記、理事、系図協会会長として、また中央管理会会員、神殿長、作家、編集者、教育者、実業家、十二使徒評議員、十二使徒評議員会会長、副管長として、主のみわざ進展のために休みなく献身してきた。

スミス大管長の生涯は、馬車の時代からジェット機の時代にわたっている。これまでに一般大会での話は100を越え、ほぼ5千のステーク部大会に出席した。セント・ジョージ、ソルトレーク、ハワイ、アルバータ、アリゾナ、アイダホ・フォールズ、ロスアンゼルス、ロンドン、オークランド等9つの神殿の献堂式に臨席し、何十という伝道部を訪問した。

まもなく94歳を迎えようとしているスミス大管長は、妻のジェシー・エバンズ・スミス姉妹と共に簡素なアパートに住



記者会見で新しい召しについて語るリー副管長、スミス大管長
タナー副管長

み、教会本部の建物まで徒歩で通っている。数多くの会合、約束、会見、事務などの合間には、聖典を勉強したり、タイプライターに向かったり、教義の質問に答えている姿がよく見られる。

全教会員が、身近に彼を知ることができたならと思う。多くの人々に厳しくがん固だと見られているが、真理と正義にかけてはまさしくそうである。彼においては、神の御言葉に一片の妥協もない。真理は真理であり、神のいましめには斟酌も遠慮もできない。父親について言われた言葉はそのまま彼に言われるであろう。「その信念は、敵味方ともに打ち破り得ない真理への献身と忠実に裏付けられている」。スミス大管長は、主の御言葉や、主が予言者によって語り啓示したもうことは、人の都合や人の気持によって少しでも変えたり修正したりできないと信じている。回復された福音のすべての原則を、妥協も懸念もためらいもなく、文字通り完全に受け入れているのである。ヨシユアも「……ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます」（ヨシユア24：15）と断固として叫んだ。

しかしジョセフ・フィールディング・スミス大管長には、あまり知られていない一面がある。それを知らなくして、真実の彼を知ることにはできない。その一つの例を見てみよう。

彼は愛深く暖かい夫、父親、祖父である。5人の息子はみな伝道に出、子供たちはみな神殿結婚をした。最近大管長は子供たちについてこう語った。

「私には11人の子供がいるが、この現在までみんなが信仰厚い教会員として活発に教会に集っている。教えられたように…。彼らは従順な子供だった。彼らは永遠に私と共にあり、

私の王国の礎となろう」。

彼の子孫は11人の子供のほかに、29人ずつ男女あわせて58人の孫、21人ずつ男女あわせて42人の曾孫、あわせて111人である。そのうち13人の孫は伝道を終え、すでに結婚している20人の孫はみな神殿での結婚をした。家族をよく知っているリチャード L. エバンズ長老は、「この家族の信仰と献身、市民としての正しく正直な生活態度は、幼い頃から信仰厚い両親に教えられ訓練されてきたたまものである」と書いている。

スミス大管長の誕生日に近い土曜日を家族のための日とすることは恒例となっている。この日に全家族はソルトレーク市の公園に集まり、ゲームや話や歌に興じ、夕食を共にする。

その日の最大行事は「スミスおじいさん」の話と、ひとりひとりに贈られるプレゼントである。自分の誕生日に子供や孫たち全員にプレゼントすることで、111の誕生日を覚えるという難問題が解決されるわけである。

教会の責任を遂行するスミス大管長のかたわらには、ほとんどいつも愛する伴侶ジェシー夫人の姿が見える。夫人は輝かしいオペラ歌手の座を、彼女自身の言葉で言えば、ジョセフ・フィールディング・スミスの妻という「もっと大切な生涯の仕事」のために、なげうった。ウィットに富んだ快活で明るい性格と、人をほほえみに誘う彼女の笑顔は、緊張と重荷を和げる清涼剤である。時たま大管長の話のあいまに、乞われて歌うこともある。夫人はタバナクル聖歌隊のソリストである。スミス大管長も歌が上手で、夫妻共にピアノの前に腰かけながらデュエットを歌っている姿は、心なごむ風景である。

スミス大管長が数多くの著書を持つことは全教会員の知るところである。しかし、4編の讚美歌を作詞したことはあまり知られていない。

ジョージ D. パイパー作曲による「Does the Journey Seem Long?」は最近タバナクル聖歌隊により放送された。

また、アレクサンダー・シュライナー作曲の「We are Watchman on the Tower of Zion」は、1963年オークランド神殿の定礎式でスミス姉妹をソリストとし、タバナクル聖歌隊により歌われた。

夫妻の生活は愛と尊敬と調和に満ちている。ジェシー夫人は、最近夫について語った。「世界一親切で思いやりの深い人です。私を怒ったり、冷たい言葉を口にしたりということは一度もありません」。その言葉についてスミス大管長は、「妻は私を怒らせるようなことをしたことはありません」と答えている。

スミス大管長はすばらしいユーモアのセンスの持ち主であ

る。それは彼を知る人がすべて認めるところである。彼の家の台所の壁にかかっている飾り板に、このような言葉が書いてある。

「家ででの夫の発言は、仕事での発言にあらず」

「わが家の主婦は立派なマネージャーです」と保証する大管長に答えて、夫人は言っている。「はい、けれどマネージャーは自分の場を心得ています。去年の夏、秘書の方がお休みのため、手伝いで主人の事務所に行きましたら、私の肩をたたいて『かあさん、これだけは忘れないで下さいよ。ここでは家の中のことを話してはいけません』と言われました」と。

スミス大管長は非常なスポーツ愛好家である。若い時には時間があるといつでも野球などのスポーツに興じ、近くのきたない川で泳ぎを覚えた。チームのレギュラーとしてハンドボールをやり、特に球技は何でも得意であった。子供や孫の何人かは立派な運動選手である。

スミス大管長と故デビッド O. マッケイ大管長の友情は、心暖まるものである。

マッケイ大管長が入院する二、三年前、副管長と彼が儀式を施すために呼ばれた。その知らせがスミス大管長に届いたのは、アイダホ州ルイストンのステーク部大会の席上であった。彼は午前の大会が終るとすぐに出発し、車を夜通し走らせて、午前3時に到着した。共に主に仕える旧友として、二人は互いに名前を呼び、いだきあった。

首尾一貫性はスミス大管長にめだつ徳である。これまでの人生を通じて、彼の信ずるところと、その教えには矛盾がない。スミス大管長について書かれた34年前のこの言葉は、インクの跡がまだ乾かぬかのように今もふさわしい。「今までに最も印象深い教えと言えば、『義は国を高めるが、罪は人の恥辱である』という教えである。ジョセフ・フィールディングは、人に嘆き、不安をもたらす破戒や不正と戦う戦士であり、人間を愛し、自ら説く原則が救いの力を持つという気高い信仰を持っている。彼の努力の底には、人類に尽したいという深い望みがある。彼を知る人は、一瞬たりといえども、彼の述べる言葉にこめられた正直な思いと知恵を疑い得ないであろう。墮落が人々の間に広まれば、その社会、教会、組織の永続はほとんど望めない。これは、彼の説教の根本である。

ジョセフ・フィールディング・スミスには、健全な生活に欠くことのできない、正直、慈愛、神をおそれ、神に頼る心、強健な知力、頑健な体、確固たる信念、終始ゆるがぬ目的、健全な精神、いさぎよく気高い行ないなどが、自然と調和して備わり、高潔な人格を示している。彼は偉大な使徒の職にふさわしい資質を豊かに恵まれた人である。」



語り合う、スミス大管長(左)、タナー副管長、リー副管長

1966年、前大管長会のマッケイ大管長、ヒュー B. ブラウン、N. エルドン・タナー副管長はジョセフ・フィールディング・スミス大管長について、大小にかかわらず彼の果たす仕事は、その働きを見るすべての人の信頼を得る、と語った。彼は自分の楽しみよりは主のみわざのために、喜んで海や陸を旅行した。時代は馬車からジェット機に移ったが、彼はそのどちらも好んだ。教会や教義の知識において、彼に勝る人は少ないであろう。彼は並ぶ者の少ないすぐれた学者であり、その著作物は世界中の人々の信仰を強めている。

教会指導者としてのつとめに対する忠実さは、一步も妥協を許さない。彼はあらゆる努力を傾けて教会員を守ってきた。彼ほどに大管長に忠実であった人は、おそらくいないであろう。

彼に従って働いた人々はみな、彼の親切と思いやりをあげている。スミス大管長は指導者として、自分がいやな仕事は人に頼んだことがないと言えるであろう。

実行力をもって、教会の標準を守るよう警告する思いやり深い勇気の人、しかし誤りを犯して真に悔い改めた者を心から許す人、スミス大管長の中には、敬神の心から生じる平安「みたま」の証から来る確信、自己訓練のたまものとしての義務に対する忠誠がある。

彼の祈りを聞いた人は、「誠実に、忠実に」という言葉をよく耳にしたことであろう。これは彼の生涯を集約する言葉である。

スミス大管長は、実に地上における主の王国の指導者にふさわしい人格を備えた人である。世界中の教会員は彼を神の予言者として歓迎し、支持するものである。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長の略歴

1876年	7月19日ソルトレーク市に生まる	1936年	「人類の進歩」を出版
1898年	ソルトレーク・ステーク部MIA管理会員に任命さる	1938年	「ジョセフ F. スミスの生涯」を出版
1898年	ルーズ E. シャートリフと結婚（夫人は1908年4月逝去）	1938年	「予言者 ジョセフ・スミスの教え」を出版
1899~1901年	英国諸島で伝道	1938年	ジェシー・エラ・エバンズと4月に結婚
1901~1910年	ソルトレーク・ステーク部パートタイム宣教師として伝道	1939年	ヨーロッパの伝道部を訪れ、英国諸島を除くヨーロッパ全土からのアメリカ人宣教師引き揚げを指揮する
1903年	「トプスフィールドのエゼル・スミス、及びスミスタ家のこと」出版	1942年	「回復された福音の原則」（ドイツ語）を出版
1903~1919年	YMMIA中央管理会会員として働く	1942年	「時のしるし」を出版
1903年	再組織末日聖徒イエス・キリスト教会のリチャード C. エバンズと共に「血の贖いと多妻結婚の起源」を出版	1944年	「万物の回復」を出版
1904年	ソルトレーク・ステーク部高等評議員となる	1945~1949年	ソルトレーク神殿長となる
1906年	教会歴史記録者の補助に任命さる	1951年	6月4日、ブリガム・ヤング大学より名誉文学博士号を受ける
1907年	「再組織末日聖徒イエス・キリスト教会の起源と継承権の問題」を出版	1951年	4月、十二使徒評議員会会長となる
1907年	ユタ系図協会の書記、理事に指名さる	1953年	「教会歴史と近代の啓示」（全二巻）を出版
1908年	エセル G. レイノルズと結婚（夫人は1937年11月に逝去）	1954年	「人、その起源と行末」を出版
1909年	ユタ系図協会の図書館長及び会計に指名さる	1954年	「救いの教義」（第一巻）を出版
1910年	使徒に聖任され、十二使徒評議員会に入る	1955年	「救いの教義」（第二巻）を出版
1910年	「ユタ系図、歴史マガジン」初代副編集長、営業部長となる	1955年	日本伝道部を訪れ、韓国、沖縄、フィリピンを伝道の地として奉獻し、日本伝道部を北部極東伝道部とし、新たに南部極東伝道部をもうけた
1912年	ブリガム・ヤング大学理事に任命さる	1956年	「救いの教義」（第三巻）を出版
1912年	「万人の救い」を出版	1957年	「福音の質疑応答」（第一巻）を出版
1915年	ソルトレーク神殿管理会会長会副会長となる	1958年	「福音の質疑応答」（第二巻）を出版
1917年	教会教育管理会会員となる	1959年	ニュージーランド、オーストラリアのステーク部伝道部訪問
1921年	教会歴史記録者となる	1960年	ユタ州国家警備隊名誉代将に任命さる
1922年	「教会歴史粹」を出版	1960年	「福音の質疑応答」（第三巻）を出版
1924年	「予言者エライジャとその使命」を出版	1960年	南アフリカの伝道部訪問
1927年	「死者の救い、系図、神殿の儀式に関して」を出版	1963年	「福音の質疑応答」（第四巻）を出版
1931年	「完成への道」を出版	1965年	10月29日、大管長会副管長に指名さる
1934年	系図協会会長に指名さる	1966年	「福音の質疑応答」（第五巻）を出版
		1966年	ブリガム・ヤング大学図書館に収集されたアメリカにおける教会歴史の資料コレクションに名前を付される
		1970年	教会第十代大管長となる